

我が国におけるA I S導入に伴うV T S業務への貢献と課題  
海上保安庁交通部整備課信号施設室  
主任信号施設技術官 小熊 茂

<講演概要>

海上保安庁では、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海等の船舶交通が特にふくそうする海域においては、船舶の安全かつ効率的な運航を確保するために海上交通センター（いわゆるVTSセンター）を設置し、海上交通に関する情報提供と航行管制とを一元的に行っている。

改正SOLAS条約では、2002年7月から2008年7月まで一定要件の船舶に船舶自動識別装置（Automatic Identification System以下、「AIS」という。）の搭載が義務付けられており、本講演では、これらAISを各VTSセンターにおける船舶動静の管理ツールとして、従来からのレーダーシステムと融合したシステムを逐次整備を進めていく中で、東京湾海上交通センターにおける1年余りの運用実績から、本システムの有効活用事例とAISの抱える課題について述べた。

---